

MUSEUM NEWS

2016.10 ▶ 2016.11

NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体

とき・9/17(土)～11/14(月・県民の日)

ところ・2階展示室

内容・現在活躍中の埼玉ゆかりのアーティストに焦点をあてるシリーズ企画「ニュー・ヴィジョン・サイタマ」の第5回。80年代生まれの若手作家7名の近作や新作で構成します。自らの身体を経由して外界に触れ、その経験や感覚をそれぞれのメディアやスタイルで表現するアーティストたち。彼らの作品を通じて、同時代の感性と美術のこれからを展望します。

観覧料 ・一般 1100 円(880 円)、大高生 880 円(710 円) ※()内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せて MOMAS コレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》

○ **アーティスト x クロス x トーク**

内容・出品作家とゲストが展示作品について語りあいます。
ところ・2階展示室／費用・企画展観覧料が必要です。
とき・①10/23 (日) 15:00～16:00 小畑多丘 x 宇多丸 (RH-YMESTER /ラッパー、ラジオパーソナリティ) x 松下徹 (アーティスト)
②10/30 (日) 13:00～14:00 青木真莉子 x 秋山幸 (画家) x 戸田祥子 (美術作家)
③11/3 (木・祝) 15:00～16:00 二藤建人 x 粟田大輔 (美術批評)
④11/5 (土) 15:00～16:00 小左誠一郎 x 兼平彦太郎 (キュレーター)
⑤11/6 (日) 15:00～16:00 鈴木のぞみ x 新井卓 (写真家)

○ **たとえば、美術館に3日続けて行ってみよう。**

とき・10/8(土)、10/9(日)、10/10(月・祝)

内容・アーティストユニット L PACK.(エルパック)のプロデュースで、美術館の前庭をメイン会場に、アーティストとパブリックが豊かな交流を繰り広げるパビリオンをつくり、さまざまなイベントを開催します。詳しくは、L PACK. ホームページ特設サイト (<http://www.lpack.jp/momas2016/>)をご覧ください。

※ご希望のグループに本展の見どころをご案内します (予約制)。お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当 (電話 048-824-0110) まで。

日本におけるキュビスムーピカソインパクト

とき・11/23(水・祝)～1/29(日)

ところ・2階展示室

内容・モチーフを幾何学的に解体、再構成するキュビスムは、20世紀初頭、ピカソらによって生み出されました。戦前の日本の美術家はその革新的な作風を熱心に取り入れます。また、戦後、ピカソの《ゲルニカ》などに影響を受けた美術家は、様々な作品に再びキュビスムの表現を応用します。大正から戦後間もない時期にかけての日本におけるキュビスムの展開を探る展覧会です。

観覧料 ・一般 1100 円(880 円)、大高生 880 円(710 円) ※()内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せて MOMAS コレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》

○ **担当学芸員によるギャラリー・トーク**

とき・11/26 (土) 15:00～15:30

ところ・2階展示室／費用・企画展観覧料が必要です。

※ご希望のグループに本展の見どころをご案内します (予約制)。お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当 (電話 048-824-0110) まで。

『ZOCALO&Deluxe』による【拡大版『ソカロ』開放計画】

今号では、紙面が2倍の拡大版『ZOCALO&Deluxe』による「NEW VISION SAITAMA 5」総力特集を組みました。展覧会の出品作家に自由に表現してもらうことを計画したのですが、通常の紙面では明らかに不足です。そこで、「迫り出す身体、飛び出すソカロ」という語呂合わせのような思いつきから、溢れ出る作家のエネルギーをすくいあげるべく、紙面を2倍に拡大することにしました。

こうして、出品作家7名に各々13 x 13 cmの紙面を開放しました(中園隼二氏については関係者の協力を得て展示作業時の写真を掲載)。結果は、ご覧のように濃密な世界が広がり、紙面空間においても展覧会が実現しているようです。物理的に飛び出す掛けはなくても、飛び出す絵本以上に、目に、心に、飛び込んでくる「迫り出すソカロ」が実現しました。なお、この特集は、『ソカロ』開放計画』の第二弾にあたります。『ソカロ』開放計画』は、雑誌『美術手帳』359号(1972年10月号)の特集「誌面開放計画」をモデルとして、『ソカロ』2015年12月～2016年1月号

はみだしソカロ017 ペット名のトリビア：荒川作の九尾鳥は「プランキー」、若林薫の猫たちは「飛雲(ピョウ)」と「狼(ブリ)。オノサト・トシノブは「穴丸」と「丸」。あ、でもこれ息子さんたちの名前。(シーブロッグ・西蔵・メス)

MOMASコレクション(収蔵品展)

■ 2016年度 第2期

とき・7/16(土)～10/16(日)

ところ・1階展示室

観覧料 ・一般 200 円(120 円)、大高生 100 円(60 円) ※()内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。

◇ **セレクション**：コトリロとか佐伯祐三とか

◇ **埼玉の日本画—近代から現代へ** ◇ 『方寸』の時代

■ 2016年度 第3期

とき・10/22(土)～1/15(日)

ところ・1階展示室

観覧料 ・一般 200 円(120 円)、大高生 100 円(60 円) ※()内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。11/6(日)〔「彩の国教育週間」中の日曜日〕および11/14(月・県民の日)は MOMAS コレクション観覧料が無料となります。

◇ **セレクション**：デルヴォーとか瑛九とか

シュルレアリスムの画家ポール・デルヴォーをはじめとする西洋近代の作品の数々に、日本近代の画家の作品を交えて紹介します。

◇ **絵画と彫刻の間**

絵画と彫刻のあいだには、果たして本当に明確な線引きが存在するの、か、収蔵品の展示を通して考えます。

◇ **橋本真之《果実の中の木もれ陽》これまで／これから**

11月に公開制作による増殖が予定されている橋本作品。作家のイメージ・ドローイングを通して成長の軌跡をたどります。

《関連イベント》

○ **橋本真之のスペシャル・トーク**

とき・10/22(土) 16:00～16:50

ところ・1階展示室／内容・11月に公開制作を行う《果実の中の木もれ陽》について、イメージ・ドローイングを前に作家自身が解説します。／費用・MOMAS コレクション観覧料が必要です。

○ **サンデー・トーク**

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで展示室内で解説します。／費用・MOMAS コレクション観覧料が必要です。

とき・10/16(日) 15:00～15:30

作品・小茂田青樹《鳴鶴》1930年
担当学芸員・吉岡知子

とき・11/6(日) 13:00～13:30

作品・瑛九《花》1956年／**担当学芸員**・梅津元

※10/22(土)、10/23(日)をのぞく会期中の毎日14:00から30分程度、1階展示室で美術館サポーター(ガイド・ボランティア)による作品ガイドを開催します。参加には MOMAS コレクション観覧料が必要です。

ファミリー鑑賞会

とき・10/12(水) 11:00から1時間程度

ところ・1階展示室

内容・小さなお子様連れのご家族優先の時間を設け、美術館スタッフが MOMAS コレクション第2期をご案内します。
申込・不要／**費用**・MOMAS コレクション観覧料が必要です。

橋本真之《果実の中の木もれ陽》公開制作@北浦和公園

とき・11/15(火)～11/30(水)各日 10:00～16:00(途中休憩有) ※土・日曜日および11/25(金)は作業を行いません。荒天時は作業を中断・延期する場合があります。

ところ・北浦和公園(自由観覧)

内容・「増殖・成長する作品」というコンセプトのもと、これまで二度の増殖を経て変貌を遂げてきた橋本真之の《果実の中の木もれ陽》が、「公開制作によりさらに「成長」します。

橋本真之《果実の中の木もれ陽》1985年～

橋本真之《果実の中の木もれ陽》1985年～

において実行されました。この記念すべき第一弾は、タイガール立石「虎の巻」からの転載と、中ザワヒデキさんによる原寸描き下ろし新作という豪華本本立てとして実現しました(当館HP「お知らせ」>広報紙ソカロ)でご覧いただけます。つまり、『ソカロ』開放計画』とは、「印刷物という媒体において可能な美術：＝印刷物の美術、の実践なのです。このような発想は、前号8-9月号掲載の「彫／刻／印／刷／物」でもう紹介した、セス・ジーゲローブのコンセプトと共鳴しています。

「CATALOGUE-AS-EXHIBITION」、「EXHIBITION-AS-CATALOGUE」というフレーズが掲げられたジーゲローブの個展のカタログを紹介して、「拡大版『ソカロ』開放計画」を締めくくりたいと思います。(G.U.)

Seith Siegelhub: Beyond Conceptual Art, Stedelijk Museum Amsterdam, Dec.12, 2015-Apr.17, 2016

音、ラスコーの壁面を教科書で見た。牛と思える動物の絵である。人は自分を表現する手段として音楽や文章や絵を書いた。他者に刺激を与えることができれば立派である。(幸耕平・65歳・男性)

アートフル∞プログラム MOMASの扉

とき・毎週土曜日 13:30～15:30

対象・幼児から大人まで

費用・「工房」は材料費 500 円。その他は無料。

申込方法・館内で配布する申込用紙により FAX でお申し込みください。申込用紙はホームページからもダウンロードできます。

11 月分の申込みを 10/1 (土) から受け付けます。

11/ 5 (土) さいたまトリエンナーレ関連 WS【小学生から大人まで】
11/12 (土) みる十つくる (企画展展覧)【小・中学生】
11/14 (月・県民の日) もますまつり【※申込不要】
11/19 (土) わくわく鑑賞ツアー【※申込不要】
11/26 (土) みる十つくる (企画展コレクション)【小・中学生】

12 月分の申込みを 11/1 (火) から受け付けます。

12/ 3 (土) み〜つげ!【4～6 才+保護者】

12/10 (土) アート★期間【※申込不要】

12/17 (土) 工房【小学生から大人まで】

12/24 (土) みる十つくる (企画展物語)【小・中学生】

美術館サポーター(第7期生)募集

活動内容・MOMAS コレクションの作品解説ガイド(月1,2回程度)
およびサポーター月例会研修の参加(毎月第4土曜日に実施)
募集期間・10/1(土)～10/30(日)※必着／**募集人数**・約7名
応募方法・応募用紙(募集ちらし裏面)に記入の上、提出書類を添えて、教育・広報担当まで郵送、または1階受付までご持参ください。応募用紙は1階受付にて配布するほか、ホームページからもダウンロードできます。※応募条件等の詳細は、募集ちらしをご確認ください。

近現代建築探検ツアー(古河)

とき・11/26(土) 12:00～16:15

内容・製糸業繁栄の面影を色濃く残す蔵の街、茨城県古河市を訪ね、江戸から戦前に建てられた歴史的建造物や、建築家・吉田桂二が建造物の保存と新しい街づくりを手がけた文化エリアを見学します。今の暮らしと歴史とが共存する街空間の在り方を、建築を通じて探るよい機会です。

主な見学先・①亀屋商事株式会社(旧飯島家住宅・旧飯島製糸煉瓦倉庫)〔登録有形文化財／昭和10年〕②篆刻美術館〔登録有形文化財／大正9年〕③古河文館〔設計：吉田桂二／平成10年〕④古河歴史博物館〔設計：吉田桂二／日本建築学会賞および公共建築賞／平成2年〕⑤長谷川家住居〔設計：吉田五十八／戦中〕※事情により見学場所が変更される場合があります。また、建築の内部に入れない箇所があります。

講師・伊豆井秀一(地域美産研究会副代表)／**定員**・20名(抽選)

費用・2100 円(参加費 1500 円＋入館料 600 円) ※移動の交通費等は各自負担。

申込方法・往復はがき(一人一枚)に返信宛名を記入し、「建築ツアー(古河)参加希望、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、連絡先の電話番号を明記の上、当館建築ツアー担当までお送りください。／**申込受付期間**・10/1(土)～10/13(木)※必着

一般展示室(地階)

※日程・内容は変更される場合があります。最新の情報については各主催者へお問い合わせください。

※展示により観覧時間(特に最終日の終了時間)が異なります。

◆10/4(火)～10/9(日) 40周年記念・四季との語りい 山崎義孝油絵展(油彩)……………一般展示室2

M・A・S (協賛埼玉モダンアート)展(油彩、版画、彫刻ほか)……………一般展示室3

全日写連浦和支部写真展(写真)……………一般展示室4

◆10/5(水)～10/9(日) 第26回全国平成水墨画展(水墨画)……………一般展示室1

◆10/11(火)～10/16(日) 第16回美術協会純展・埼玉支部展(油彩、水彩、ペン画ほか)……………一般展示室2

◆10/11(火)～10/23(日) ※10/17(月)は休館日
さいたまトリエンナーレ2016市民プロジェクト さいたま市の美術家展(日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真)… 一般展示室1・4

◆10/18(火)～10/23(日) 矢島俊一 油絵展(油彩、ドローイング)……………一般展示室2

第11回飛鳥会日本刺繍作品展(工芸)……………一般展示室3

◆10/26(水)～10/30(日) 第59回埼玉県高校美術展(絵画、版画、彫刻、工芸ほか)……………一般展示室1～4

◆11/1(火)～11/6(日) 第25回全日中展(日中書画芸術大展)(水墨画、水彩、日本画、書)……………一般展示室1～3

井上美千代 陶芸作品展(工芸)……………一般展示室4

◆11/9(水)～11/20(日) 2016CAFネビュラ展(平面、立体、インスタレーションほか)……………一般展示室1～4

◆11/22(火)～11/27(日) 第55回埼玉県高等学校書道展覧会(書) ……一般展示室1～4

◆11/29(火)～12/4(日) 第7回東原書展(書)……………一般展示室1

1級勲記念 本橋青流書展(書)……………一般展示室3・4

ピカソに聞く!

11月23日から始まる企画展「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」について、パロディ・ピカソさん(以下、P・ピカソ)にインタビューしてみました。
※もしピカソが生きていて、この展覧会の準備を見ていたら、という設定です。

— **どんな展覧会ですか?**

P・ピカソ:1900年代から1960年代初頭にかけて日本で制作されたキュビスムのスタイルの作品と、それらの誕生に影響を与えたわたと相棒のブラックの作品あわせて約180点が紹介されるのう。

— **なぜキュビスムをテーマに?**

P・ピカソ:思い出せば1907年、わしが《アヴィニョンの娘たち》を描きキュビスムが生まれたことで、それまで遠近法のルールにのっっていた西洋の視覚文化に革命が起こったものじゃった。その衝撃は大きく、日本でも多くの芸術家がキュビスムの手法を試みたと聞いておる。しかも、ほとんどの作家たちが、わずか数年でそのスタイルを変えてしまったよじ。絶大な影響力を持ちながら、なぜわしがキュビスムは日本ではひとときの現象に終わったのか、そこで生まれた作品はどんなものだったのか—公立美術館の連携組織・美術館連絡協議会が開催館を募り、学芸員たちがリサーチを重ねながら企画を温めたのである。

— **みどころは?**

P・ピカソ:今回の展覧会でカバーする時期は、1909年から1962年までのおよそ50年、この間に生まれた油彩・版画・日本画から工芸などバラエティ豊かな作品が集うことになった。キュビスムというテーマが各時代を貫く軸になり、普段は隣り合うことのない作品が並ぶのが、みどころのひとつと言えるのう。会場では、ピカソ、萬鉄五郎、東郷青児、坂田一男といった、キュビスムというキーワードからすぐくに思い出される面々のみならず、河原温や高山辰雄など、「え、この人もキュビスムやったの?」という意外なケースまで、さまざまな作品と出逢うことができるであらう。

— **隣で見ていて、展覧会の準備は大変そうでしたか?**

P・ピカソ:今回出品する作品を選ぶ中で、どこまでをキュビスムとみなすかは、最後まで悩みの種だったようじゃ。日本ではキュビスムは他の様式と一体となって生まれたがゆえに、戦前といえば未来派や表現主義や構成主義、戦後ではポルポルージュ絵画など、通常は違う文脈で紹介される作品が多数含まれておる。「果たしてこれはキュビスムと言えるのだろうか…」と担当学芸員の間でも意見が割れる場面が少なからずあったのう。それから、限られた展示スペースの中で、よく知られたいわぬ名品を取るか、はたまたあまり知られていない作品を発掘するか、担当者たちは頭を抱えておた。最終的には、作品としての強度と、「キュビスムがなければこの作品は生まれなかっただろう」という観点から作品をふるいにかけておったわい。

他の展覧会と出品予定が重なっていたり、長距離の輸送ができなかったりと、必ずしも当初のドリームプランどおりではないようじゃが、日本のキュビスムの展開を語る上で核となる作品が集まったと思うぞ。

ちなみに、いま聞いても聞いたこと、このころずっとキューブなものばかりと接していたので、若かりし頃のわしのように、担当者たちも日常生活でのまわりのものが角ばって見えてさう少困っていたよじ。わしや日本の作家たちが開拓した新しい視覚世界、皆さまもぜひ会場でとくと体感ください。

(聞き手 R.G. 翻訳 I.H.)

原田直次郎展の4つの豹

今年2月から9月にかけて、埼玉県立近代美術館、神奈川県立近代美術館 葉山、岡山県立美術館、島根県立石見美術館の4館を巡回した「原田直次郎展」は、渾身の共同研究が実り、大きな反響を呼ぶことができました。こうした展覧会を広く知ってもらうために欠かせないのがポスターやちらしといった広報印刷物で、これらは展覧会の「貌」ともいへべき役割を果たしています。

埼玉で配布したちらし(①)は、白地の中央に重要文化財の《靴屋の親爺》を、その周囲に展覧会名と原田自身の言葉「西洋畫は…」を配しています。独特の文字が絵を凌ぐ勢いです。知名度が高いとは言えない原田直次郎に注目してもらうため、インパクトの強いデザインを得意とする大清裕さんに白羽の矢を立てたのですが、こちらが示した題材に対し「無名の中年男の地味な絵」「凡庸な副題」など散々ダメ出しが…。そもそも《靴屋の親爺》に惚れ込んで今回の展覧会を企画した吉岡学芸員としては、作品を譲るわけにはいきません。必死で資料の山を探索しているときに大満さんの目に留まったのが、原田の文章を掲載した『國民新聞』でした。その中の一節を旧字・旧仮名遣いのままデザインのととし、現代的な書体のタイトル・ロゴと組み合わせた清新なポスターやちらしは、多くの方から褒めの言葉を頂戴しました。

原田展では各館の担当者それぞれにこの展覧会に参画する強い動機がありましたから、その姿勢を反映した印刷物が次々に出揃いました。神奈川県 B2 判ポスターは、最も有名な《騎龍観音》を全面に配した王道のレイアウトでした。それに比べてちらし(②)は少しおとなしく、ドイツと日本の風景を取り合わせています。「画業の最初と最後という、原田の生涯における二つの重要な時間」空間を視覚的に対比させました。どちらの絵も手前を広くとった構図なので、主要なモチーフを中央に置いて見開きにするとも、ちょうど何となくつながるのです(三本松さん)。

3番手の岡山も、ちらし(③)にこだわりを見せました。絵と同じ A4 判ながら唯一の横位置で、《神父》をメインに4点を組み合わせることによって、原田作品のさまざまなイメージを伝えようとしたのです。《神父》は、画業全体を通じて最も完成度が高い作品であり、《風景》と並んで個人的に好きな作品だったため、私自身の好みを強く打ち出した形となりました(橋村さん)。知名度より隠れた名作を、という実をとる選択は少し勇気がいりますよね。

そして最終会場の石見からは、とてもキュートなちらし(④)が送られてきてびっくり。《ドイツの少女》の健康美にあふれた明るいイメージは、

AR動画 おもて面写真の一部に、スマートフォンをかざして見られるAR動画を設定しています。無料ARアプリ「Aurasma」をApp StoreまたはGoogle Playでダウンロードしてお楽しみください。アプリの使い方は、当館ホームページの「広報紙ソカロ」のページをご参照ください。

<div><div></div>埼玉県立近代美術館</div>	<div><div></div><div><div></div>所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1</div></div> <div><div></div><div><div>TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 URL・http://www.pref.spec.ed.jp/momas/</div></div> <div><div></div><div><div>開館時間・10:00～17:30 (展示室への上場は17:00まで)</div></div> <div><div></div><div><div>休館日・月曜日(10/10、11/14は開館)</div></div> <div><div></div><div><div>入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください</div></div></div></div></div></div>	<div><div></div><div><div>交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。</div></div></div> <div><div></div><div><div>※当館に来館者専用の駐車スペースがありませんが、提携駐車場「五井のりーく 埼玉県立近代美術館東」では、駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。</div></div></div> <div><div></div><div><div>団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたしますが、台数に限りがありますので予めご了承ください。</div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>
<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>	<div><div></div><div><div></div></div></div>